

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成31年 1月17日

(2) 調査対象期間 平成30年10月～12月期実績および平成31年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を対象に、往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	24社	80.0%
建 設 業	30社	22社	73.3%
卸 売 業	30社	23社	76.7%
小 売 業	35社	21社	60.0%
サービス業	25社	16社	64.0%
合 計	150社	106社	70.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成30年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」16.0%、「悪化企業」46.2%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△30.2となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期比△14.3→今回△30.2と15.9ポイントの悪化となっています。また、前期<第Ⅱ四半期>との比較では、前期△21.7→今回△30.2と8.5ポイントの悪化となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△20.8、建設業D・I値△31.9、卸売業D・I値△47.9、小売業D・I値△19.1、サービス業D・I値△31.3となっており、前年同期調査と比較すると、製造業で9.2ポイントの好転傾向を示したものの、その他すべての業種で悪化となりました。

なお、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」16.0%、「悪化企業」38.7%でD・I値△22.7と、前年同期(△21.0)に比べ1.7ポイント悪化となり、依然厳しさが伺える来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」25.0%、「減少企業」33.3%、D・I値△8.3と前年同期に比べ16.7ポイントの好転となりました。

採 算

前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」41.7%、D・I値△16.7と前年同期に比べ8.3ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△12.5、生産高D・I値△4.1、資金繰りD・I値0と前年同期に比べ業況、生産高で悪化傾向を示し、予断を許さない来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高

前年比で「増加企業」18.2%、「減少企業」45.5%、D・I値△27.3と前年同期に比べ46.3ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」13.6%、「悪化企業」54.5%、D・I値△40.9と前年同期に比べ55.2ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△4.5、完成工事高D・I値△4.5、資金繰りD・I値△9.1と前年同期に比べ全てで好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっております。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」8.7%、「減少企業」60.9%、D・I値△52.2と前年同期に比べ20.2ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」8.7%、「悪化企業」43.5%、D・I値△34.8と前年同期に比べ18.8ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△34.8、売上高D・I値△34.8、資金繰りD・I値△13.1と前年同期に比べ資金繰りで好転傾向を示したものの、依然厳しさが伺える来期見通しとなっております。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」23.8%、「減少企業」42.9%、D・I値△19.1と前年同期と比べて10.0ポイントの悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」23.8%、「悪化企業」47.6%、D・I値△23.8と前年同期と比べて28.3ポイントの悪化傾向を示し、厳しい結果となりました。

来期見通し

業況D・I値△19.0、売上高D・I値△14.3、資金繰りD・I値△14.3と、前年同期と比べ、業況と売上高で若干の好転傾向を示しました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」18.8%、「減少企業」43.8%、D・I値△25.0と前年同期と比べ7.3ポイントの悪化傾向を示しました。

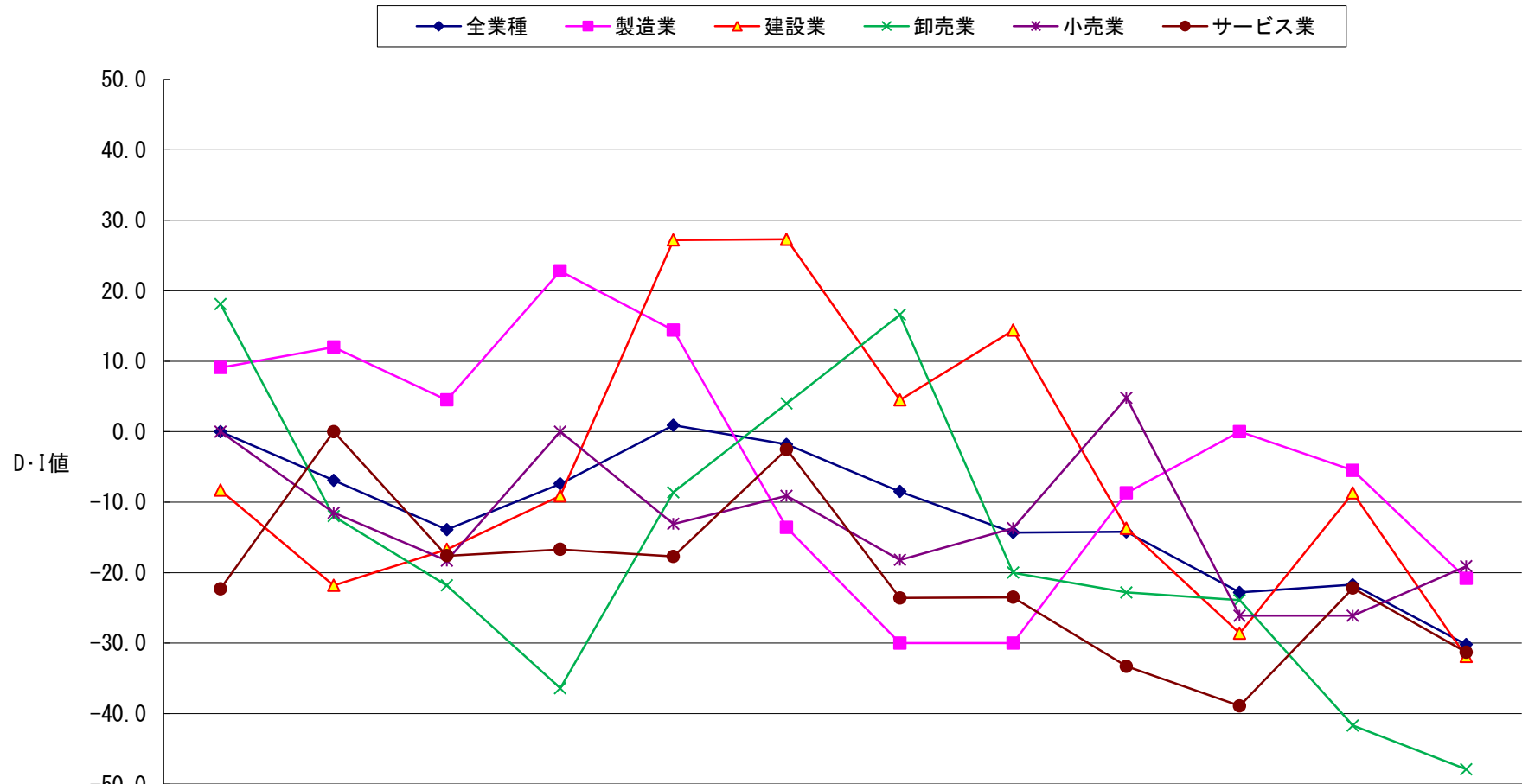
採算

前年比で「好転企業」6.7%、「悪化企業」53.3%、D・I値△46.6と前年同期に比べ23.0ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△50.0、売上高D・I値△50.0、資金繰りD・I値△31.3と前年同期と比べ、全てで悪化傾向を示し、厳しい来期見通しとなっています。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	28.1~3 27年度IV	28.4~6 28年度I	28.7~9 28年度II	28.10~12 28年度III	29.1~3 28年度IV	29.4~6 29年度I	29.7~9 29年度II	29.10~12 29年度III	30.1~3 29年度IV	30.4~6 30年度I	30.7~9 30年度II	30.10~12 30年度III
◆ 全業種	0.0	-6.9	-13.9	-7.4	0.9	-1.8	-8.5	-14.3	-14.2	-22.8	-21.7	-30.2
■ 製造業	9.1	12.0	4.5	22.8	14.4	-13.6	-30.0	-30.0	-8.7	0.0	-5.5	-20.8
▲ 建設業	-8.3	-21.8	-16.7	-9.1	27.2	27.3	4.5	14.4	-13.7	-28.6	-8.7	-31.9
× 卸売業	18.1	-12.0	-21.8	-36.4	-8.6	4.0	16.6	-20.0	-22.8	-23.9	-41.7	-47.9
✱ 小売業	0.0	-11.5	-18.3	0.0	-13.1	-9.1	-18.2	-13.7	4.8	-26.1	-26.1	-19.1
● サービス業	-22.3	0.0	-17.6	-16.7	-17.7	-2.5	-23.6	-23.5	-33.3	-38.9	-22.2	-31.3

各年度調査期

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
建 設 業	人 材 不 足	人 件 費 増	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
卸 売 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	人 材 不 足	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少
合 計	人 材 不 足	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	人 件 費 増	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種で見ると、前回調査の1位と2位が入れ替わり、「人材不足」がトップとなった。また、3位と4位も入れ替わりがあった。

業種別では全ての業種で「人材不足」と「諸経費増」がトップになっており、深刻な問題になっている。人材不足に関しては、企業で新卒者採用を予定していても、実際は採用できなかったという企業もあり、人材不足は今後も問題になってくる。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

- (製造) ○生産減少
 ○人材不足 (技術、技能職)、働き方改革が進まない
 ○若者の技能離れ
 ○材料費の高騰

- (卸売) ○社員の育成と生産性向上

業 況

※太字アンダーラインは複数企業が回答

製造業 ⇒ 好転 (製麺、一般機械、農業機械金属用製品)
 悪化 (印刷、木製品、石材加工)

建設業 ⇒ 好転 (給排水・衛生・暖冷房)
 悪化 (電気工事)

卸売業 ⇒ 好転（青果物委託販売）
悪化（鉄鋼、製菓原材料機器、食品、家電、一般玩具）

小売業 ⇒ 好転（食肉、眼鏡、家具）
悪化（酒類、衣料品、自動車、時計、火薬、灯油・プロパン、米穀類）

サービス業 ⇒ 好転（自動車賃貸）
悪化（ホテル、クリーニング、飲食）